

# 講義要項 [シラバス]

---

岐阜県立国際園芸アカデミー

---

2020 マイスター科 2年生用

○ マイスター科 2年（前期）開講科目

No.	分野	区分	科目名	担当教員	時間数
1	生産	選択	生産プロジェクト実習Ⅱ	臼田	90
2	生産	選択	基礎育種学	前田	30
3	装飾	選択	フラワーデザイン実習Ⅲ	林	60
4	装飾	選択	2級フラワー装飾技能検定対策実習	吉田	90
5	造園緑化	選択	花修景実習Ⅲ	相田	30
6	造園緑化	選択	造園施工・管理実習Ⅲ	新井	60
7	造園緑化	選択	造園計画演習	相田	30
8	造園緑化	選択	2級造園技能検定対策実習	新井	30
9	共通	必修	商品動向リサーチⅡ	井上	30
10	共通	必修	植物管理基礎実習Ⅲ	前田	30
11	共通	必修	キャリアデザインⅡ	佐藤	30
12	共通	必修	海外視察研修	新井	90
13	共通	選択	起業・経営シミュレーション	佐藤	30
14	共通	選択	園芸文化研修	今西	30
15	共通	選択	職場体験実習Ⅱ	佐藤	60
16	共通	必修	卒業研究・卒業制作Ⅰ（花き生産コース）	臼田	60
17			卒業研究・卒業制作Ⅰ（花き装飾コース）	吉田	
18			卒業研究・卒業制作Ⅰ（造園緑化コース）	相田	

○ マイスター科 2年（後期）開講科目

No.	分野	区分	科目名	担当教員	時間数
19	造園緑化	選択	造園工学・施工論	新井	30
20	造園緑化	選択	公園・緑化概論	今西	30
21	共通	必修	職場体験実習Ⅲ	佐藤	150
22	共通	必修	卒業研究・卒業制作Ⅱ（花き生産コース）	臼田	270
23			卒業研究・卒業制作Ⅱ（花き装飾コース）	吉田	
24			卒業研究・卒業制作Ⅱ（造園緑化コース）	相田	
25	共通	選択	SNSプロモーション	井上	30

## 国際園芸アカデミーの教員について

### 【専任教員】

今西 良共 学長 ☆

千葉大学園芸学部環境緑地学科卒業。名古屋市役所職員として長年に亘り公園緑地行政に従事。公園緑地の計画から管理運営まで幅広く携わるとともに、花や緑にふれあう機会の提供や市民活動の支援など様々な事業を展開。国や地方公共団体の審議会・委員会等の委員多数。

### ＜花き生産コース＞

臼田 浩通 教授

東京農業大学農学部農業経済学科卒業。岐阜県庁入庁。普及指導員、農業革新支援専門員として長年花き生産指導にあたる。花き総合指導センター、(財)法人花の都ぎふ花と緑の推進センターで花きの生産指導・普及に取り組む。県庁農産園芸課花き担当チーフを務め花き行政にも明るく、県内の花き業界に幅広いネットワークを持つ。恵那農林事務所農業普及課長を経て現職。

前田 宝秀 准教授 博士(農学)

名古屋大学大学院生命農学研究科博士課程後期課程修了。大学院ではアサガオの花芽形成についての研究に取り組む。アカデミーでは苗物・鉢物・切り花など、植物の生産に関わる実習を担当。また、植物生理学・基礎育種学の講義では、植物の生長の仕組みや、育種の基礎知識・技術について解説する。

### ＜花き装飾コース＞

吉田 久美子 准教授 ☆

恵泉女学園短期大学園芸生活学科卒業。フラワー装飾技能士・グリーンアドバイザー。(株)ゴトウ花店、(株)白楽花園本店店長、(株)東光園(現:グリーン・ワイズ)販売部部長などを経て、オーガニック園芸店 t a p r o o t 主宰後現職。生花・鉢物販売や、デパート・ホテル・イベントなどにてグリーンディスプレイを多数手掛けた経験から、装飾全般、店舗経営などの科目を幅広く担当。基礎実践力、即戦力、応用力のあるフローリストの育成を目指している。

林 誠 講師 ☆

名古屋造形芸術大学デザイン学科卒業。青山フラワーマーケット勤務。店長を経て、本部にて仕入れ責任者として店長育成や店舗運営指導を担当の後、現職。花き装飾コースでは主にフラワーデザイン実習を担当。生花店で培ってきた経験やノウハウを次世代に引き継ぐべく、実践的な指導をしている。

### <造園緑化コース>

#### 相田 明 教授 博士(造園学)

東京農業大学大学院農学研究科博士後期課程修了。同大学造園科学科助手を経て現職。NPO 法人日本園芸福祉普及協会監事。主な担当科目は造園学概論（日本や世界の庭園・造園の歴史）、園芸福祉論・実習（園芸福祉や園芸ボランティア）、CAD 製図実習（コンピュータを利用した図面作成）など造園緑化の幅広い科目を担当している。

#### 新井 俊宏 准教授 ☆

東京農業大学農学部造園学科卒業。(株)アーク造園設計事務所を経て岐阜県庁入庁。公園緑地課、花フェスタ記念公園、都市公園課などを経て現職。1 級造園施工管理技士、1 級土木施工管理技士、技術士補（建設部門）、岐阜県自然工法管理士などの資格を持つ。学生同士の協調性と個人の創造性を伸ばすことに主眼を置いて指導している。

### <コース共通>

#### 井上 守 准教授 博士(農学) ☆

名古屋大学大学院生命農学研究科博士課程後期課程修了。(株)福花園植物流通センター取締役、豊明花き(株)経営企画課長、豊明物流(株)マネージャーなど花き流通業界に勤務した経験を活かして、商品の企画から販売までを実例を紹介しながら授業を行う。恵那農業高校学校評議員や名古屋市立大学大学院 経済学研究科で経済学の非常勤講師を兼務する。

#### 佐藤 智茂 准教授 修士(法学) ☆

名城大学大学院法学研究科修士課程修了。税理士法人中央経営勤務後、現職。主な担当科目は、職業選択や就職活動をサポートする授業『キャリアデザイン』、簿記の初歩から財務諸表の概要までを学ぶ授業『基礎会計』、そして経営学のセオリーを学び活用することを目指す実践的授業『起業・経営シミュレーション』である。

現在、経営学習・教育の最先端の方法の一つである“ケースメソッド”の本校への導入と実践に取り組んでいる。慶應義塾大学ビジネススクール・ケースメソッド授業法研究普及室より認定を受けた『ケースメソッド・インストラクター』である。

※ ☆は実務経験ありの教員

【客員教授】

氏名	専門分野	役職等
上田 善弘	花卉園芸学 園芸文化	前岐阜県立国際園芸アカデミー学長 花フェスタ記念公園 理事 (一社) 寄せ植え華道協会代表理事
大川 勝徳	園芸文化	元岐阜県立国際園芸アカデミー学長 金沢大学名誉教授
鹿野 陽子 ☆	造園学	元岐阜県立国際園芸アカデミー教授 鹿野都市建築計画事務所代表
進士五十八	造園学	東京農業大学名誉教授 特定非営利活動法人美し国づくり協会理事長 福井県立大学学長
武田 純 ☆	造園学	元岐阜県立国際園芸アカデミー教授 ウッズプランニング代表
長縄 律子 ☆	装飾	元岐阜県立国際園芸アカデミー特任教授 岐阜県フラワー装飾技能検定協議会長
福井 博一	園芸栽培学 施設園芸学	岐阜大学副学長
吉長 成恭 ☆	園芸療法	日本園芸福祉普及協会理事長

※ ☆は実務経験有りの教授

【非常勤講師】

氏名	業種・専門	役職等
浅野 洋一 ☆	公園管理	花フェスタ記念公園運営管理グループ
安保 有美 ☆	フローリスト	有限会社 アボウオーキッド勤務
天野麻里絵 ☆	ガーデナー	株式会社豊田ガーデン花遊庭専属ガーデナー
石神 洋一 ☆	園芸福祉	特定非営利活動法人たかつき 代表理事
伊藤 亨子 ☆	ビジネスマナー	オフィス成旺 代表
上野 恵 ☆	公園管理	花フェスタ記念公園運営管理グループ
荏原 温子 ☆	カラーコーディネーター	株式会社花・色・デザイン研究所 代表取締役
大島 綾子 ☆	いけばな師範	池坊岐阜県中央支部長
大脇みどり	英語講師	岐阜県立多治見看護専門学校 非常勤講師
小笠原 誓 ☆	園芸文化	名古屋園芸株式会社 代表取締役
落合 正樹	園芸学	岐阜大学応用生物科学部 助教
加藤 友規 ☆	造園会社経営	植彌加藤造園株式会社 代表取締役社長
國井 理佐 ☆	フローリスト	クニイ園芸
佐竹康太郎 ☆	造園会社経営	株式会社三五郎園 代表取締役社長
嶋津 光鑑	植物環境制御学	岐阜大学応用生物科学部 准教授
高木 幹夫 ☆	農業総合コンサルタント	有限会社いちゆう 取締役
高木 雄基 ☆	造園会社経営	ランドスケープ庭吉
玉田 孝一 ☆	花店経営	株式会社華友園 代表取締役
津坂 昇一 ☆	盆栽生産者	芳津園 代表
中西 裕子 ☆	フローリスト	フラワーデザインスクールブルーム 主宰
野村 勘治 ☆	造園設計	有限会社野村庭園研究所 代表取締役
福井 典子 ☆	ギャザリング	F. company 代表
福永 哲也 ☆	園芸流通	豊明花き株式会社 代表取締役社長
藤吉 栄一 ☆	造園会社経営	有限会社藤吉造園 代表取締役
堀部裕美子 ☆	造園設計 (CAD)	studio Moat club 代表
三浦 景樹 ☆	造園設計	L&E-LOOP 株式会社 代表取締役
水谷 喜輝 ☆	花き生産者	美咲園芸 代表
渡辺 雅子 ☆	植物文化	放送作家・日本民俗学会会員
渡邊 三好 ☆	造園施工	株式会社中濃 土木主任

※ ☆は実務経験有りの講師

NO.1

科 目					担当教員(○主担当)				
生産プロジェクト実習Ⅱ					○臼田 浩通・前田 宝秀				
授業形態	実習	開講時期	2年前期	時間数	90	区分	選択	分野	生産
背景と目的	『生産プロジェクト実習Ⅰ』と同様に、鉢物チームと切り花チームを組んでプロジェクト課題(マネージメント能力の向上)を行う。この実習は1年生の『花き生産流通実習Ⅰ』と同時開講とし、栽培基礎技術を1年生に教えることを通して、マネージメント能力の向上を図る。								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・温室の栽培管理計画が立てられる。</li> <li>・施肥設計や品目、品種設定ができる。</li> <li>・チームワークの重要性を理解する。</li> <li>・課題解決力が身につく。</li> <li>・マネージメント能力の向上が図れる。</li> </ul>								
授業外の学習	温室内の植物の生育状況等は、空き時間を利用して確認し、管理が必要なら行うこと。								
評価方法	出席率、取組姿勢								
教科書	-								
参考書	-								
関連する資格	-								

授業計画		
実習・演習の進め方	花き生産流通実習Ⅰにおいて、1年生に栽培基礎技術を教える。 夏季休業期間中は、温室等の栽培管理を行う。	
回	項 目	授業内容
1	マネージメント能力の向上①	1年生に栽培基礎技術を教える① 臼田・前田
2	マネージメント能力の向上②	1年生に栽培基礎技術を教える② 臼田・前田
3	マネージメント能力の向上③	1年生に栽培基礎技術を教える③ 臼田・前田
4	マネージメント能力の向上④	1年生に栽培基礎技術を教える④ 臼田・前田
5	マネージメント能力の向上⑤	1年生に栽培基礎技術を教える⑤ 臼田・前田
6	マネージメント能力の向上⑥	1年生に栽培基礎技術を教える⑥ 臼田・前田
7	マネージメント能力の向上⑦	1年生に栽培基礎技術を教える⑦ 臼田・前田
8	マネージメント能力の向上⑧	1年生に栽培基礎技術を教える⑧ 臼田・前田
9	マネージメント能力の向上⑨	1年生に栽培基礎技術を教える⑨ 臼田・前田
10	マネージメント能力の向上⑩	1年生に栽培基礎技術を教える⑩ 臼田・前田
11	温室管理の実践①	それぞれのチームの温室管理状況を把握し、温室管理を実践する① 臼田・前田
12	温室管理の実践②	それぞれのチームの温室管理状況を把握し、温室管理を実践する② 臼田・前田
13	温室管理の実践③	それぞれのチームの温室管理状況を把握し、温室管理を実践する③ 臼田・前田
14	温室管理の実践④	それぞれのチームの温室管理状況を把握し、温室管理を実践する④ 臼田・前田
15	温室管理の実践⑤	それぞれのチームの温室管理状況を把握し、温室管理を実践する⑤ 臼田・前田

注意事項	花き生産コース専攻生には強く推奨する。 前期授業時間中に60時間、春季及び夏季休業期間中に30時間開講する。
学生へのメッセージ	先輩として1年生に栽培基礎技術を教え、マネージメント能力の向上に努めましょう。

科 目				担当教員(○主担当)					
基礎育種学				○前田 宝秀					
授業形態	実習	開講時期	2年前期	時間数	30	区分	選択	分野	生産
背景と目的	嗜好品としての性格が強い花は、野菜・果物・作物と比べ、多くの品種が存在し、生産したり植栽する花の品種がどのように作られているかを理解することは重要である。 本科目では、育種を行う上で基礎となる遺伝の仕組みをまず理解し、様々な育種方法について学ぶだけでなく、実際に育種目標を立てて植物の交配も行う。さらに、種苗法について学ぶことで、育成品種の権利保護の仕組みを理解する。								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・植物の遺伝の仕組みを理解する。</li> <li>・様々な育種の方法について知る。</li> <li>・交配育種に必要な基本的知識および技術を習得する。</li> <li>・種苗法について理解する。</li> </ul>								
授業外の学習	参考書や図書室の関連書籍を利用して、授業内容についての発展学習をすること。また、実習で取り扱う植物については、授業時間外でも定期的に経過観察をすること。								
評価方法	出席率、取組姿勢、レポート								
教科書	-								
参考書	『植物の遺伝と育種』(養賢堂)、『花の品種改良入門』(誠文堂新光社)								
関連する資格	-								

授業計画		
実習・演習の進め方	教室の座学で遺伝育種の理論を学び一方で、温室で育てた植物の携帯観察を通して、遺伝について学ぶ。また、トルコギキョウ(予定)を用いて、育種目標を立てて実際に交配を行い、レポートにまとめる。	
回	項 目	授業内容
1	花の育種の特徴	花の育種の現状と課題について知る。 前田
2	遺伝の基礎①	遺伝子と染色体について知る。 前田
3	遺伝の基礎②	植物の生活環と細胞分裂様式について知る 前田
4	遺伝の基礎③	メンデルの法則について知る。 前田
5	遺伝の基礎④	変化咲きアサガオを用いた植物形質の遺伝の観察を行う。 前田
6	遺伝の基礎⑤	F1品種の特性を知る。 前田
7	育種の方法①	育種の原理と交配の仕組みについて知る。 前田
8	育種の方法②	導入育種法・交雑育種法について知る。 前田
9	育種の方法③	雑種強勢育種法について知る。 前田
10	育種の方法④	交雑育種における育種目標の設定を行う。 前田
11	育種の方法⑤	トルコギキョウを用いた交配を行う。 前田
12	バイオテクノロジー①	バイオテクノロジーの基本原理について知る。 前田
13	バイオテクノロジー②	組織培養・遺伝子組み換え技術について知る。 前田
14	植物特許と種苗登録①	種苗登録システムについて知る。 前田
15	植物特許と種苗登録②	品種育成者の権利保護について知る。 前田

注意事項	授業項目によっては、温室で作業を行うこともあります。作業を行う日は事前にお知らせしますので、作業着を着用して下さい。
学生へのメッセージ	育種の方法について座学で学ぶだけでなく、植物の種を播いてメンデルの法則を自分の目で見てもらいます。また、育種家になった気分で簡単な育種目標を設定して、実際に交配も行います。難解と思われるがちな育種について、親しみと興味を持てるような内容です。



科 目					担当教員(○主担当)				
フラワーデザイン実習Ⅲ					○林 誠☆・吉田 久美子☆・長縄 律子☆(客員教授)・ 臼田 浩通				
授業形態	実習	開講時期	2年前期	時間数	60	区分	選択	分野	装飾
背景と目的	<p>フローリストの仕事はクライアントの要望に合わせ花束、アレンジメントはもちろんのこと、空間を花や緑で飾るディスプレイなど特別の場のトータルコーディネートが求められます。</p> <p>本科目では『フラワーデザイン実習Ⅰ・Ⅱ』で培った技術を基に、空間を花や緑で飾るディスプレイ技術や特別な場を花で飾る技術を身に付けます。また、ヨーロッパデザインの考え方を学び、アレンジメントのデザインの幅を広げて発想力を豊かにすることを目的とします。</p>								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・空間を花で飾る技術を身につける。</li> <li>・フローリストとしての発想力や応用力を身につける。</li> <li>・花き装飾の歴史的かつ文化的行事などの知識を得る。</li> </ul>								
授業外の学習	図書館にある「フローリスト」「花時間」等を読みアイデア出しを行っておくこと。								
評価方法	出席率、取組姿勢、筆記試験、実技試験								
教科書	『フラワーデザイナーのための花の教科書』(講談社)								
参考書	『NFDウエディングフラワーコーステキスト』(日本フラワーデザイナー協会)								
関連する資格	2級・3級フラワー装飾技能士								

※☆のある教員は実務経験有り

授業計画			
実習・演習の進め方	デモンストレーションを参考に作品を制作します。 デザイン・コンセプトを考え作品を制作します。 グループでディスプレイを制作します。		
回	項 目	授業内容	
1	会場装花①	入学式会場装花の花材調査(岐阜生花市場見学)	吉田・林・臼田
2		入学式会場装花の準備	吉田・林
3	会場装花②	入学式会場装花の制作	吉田・林
4		入学式会場装花のメンテナンス・撤去	吉田・林
5	花き装飾の歴史と文化	「花き装飾の歴史」と「園芸装飾の歴史」	吉田・林
6	イベントのディスプレイ①	学内会場装飾の花材調達	林・吉田
7	イベントのディスプレイ②	学内会場装飾の準備	林・吉田
8		学内会場装飾の制作	林・吉田
9	イベントのディスプレイ③	学内会場装飾の設営	林・吉田
10		学内会場装飾のメンテナンス・撤去	林・吉田
11	ヨーロッパデザイン①	「平行と交差」「共同形態」「材質感を見せる」	長縄・林
12	ヨーロッパデザイン②	「静止と動き」「高く挿された」「材質感を見せる」	長縄・林
13	花き装飾のデザイン①	花の個性と特徴をいかす造形・デザイン理論	林・吉田
14	花き装飾のデザイン②	「グリーン」の役割とその効果」「吸水性スポンジを使用しない花留め方法」	吉田・林
15	試験	吸水性スポンジを使用しないアレンジ制作(テーマに基づき各自花材調達)・筆記試験	吉田・林

注意事項	実習にふさわしい服装で受講してください。花き装飾コース専攻生には強く推奨します。第1・2回、第3・4回、第7・8回、第9・10回は、全日授業です。
学生へのメッセージ	フローリストとしての発想力や応用力を身につけましょう。

科 目					担当教員(○主担当)				
2級フラワー装飾技能検定対策実習					○吉田 久美子☆・長縄 律子☆(客員教授)				
授業形態	実習	開講時期	2年前期	時間数	90	区分	選択	分野	装飾
背景と目的	国家検定試験の2級フラワー装飾に合格すると、フラワー技能士の資格が国から与えられます。2級フラワー装飾技能士は生花店で熟練した技術者が有すべき高度技術を取得するための国家検定試験です。3課題7デザインを時間制限のあるなかで、反復練習することでよりクオリティーの高い仕事が行えるようにします。また、技能検定協議委員の指導を受けることで、更に高い技術を目指します。								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2級フラワー装飾技能検定の合格水準の技術力を身に付ける。</li> <li>・学科試験のためのフラワーデザインに関する知識を身に付ける。</li> <li>・実技試験練習を繰り返すことでフローリストとしての作業所作を身に付ける。</li> </ul>								
授業外の学習	実習で学んだ技術を復習し身につけておくこと。								
評価方法	出席率、取組姿勢、、実技試験、筆記試験								
教科書	—								
参考書	フラワー装飾技能検定試験・実例とポイント 講談社エディトリアル								
関連する資格	2級フラワー装飾技能士								

※☆のある教員は実務経験有り

授業計画		
実習・演習の進め方	3課題7デザインを、花材の入荷と各自の習得スピードに合わせて、個別に指導を行う。	
回	項 目	授業内容
1	国家試験の概要とデモンストレーション①	試験の概要説明とデモンストレーション 花束・アレンジ 吉田
2	国家試験の概要とデモンストレーション②	試験の概要説明とデモンストレーション ウェディングブーケ 吉田
3	実技試験対策実習・課題①花束	ラウンド花束A 吉田
4	実技試験対策実習・課題①花束	ラウンド花束B 吉田
5	実技試験対策実習・課題②アレンジメント	トライアングュラー 吉田
6	実技試験対策実習・課題②アレンジメント	ファン 吉田
7	実技試験対策実習・課題②アレンジメント	ホリゾンタル 吉田
8	実技試験対策実習・課題③ブライダルブーケ	キャスケード 吉田
9	実技試験対策実習・課題③ブライダルブーケ	クレセント 吉田
10	実技対策実習①	技能検定協議委員による指導 長縄
11	実技対策実習②	技能検定協議委員による指導 長縄
12	実技対策実習③	制限時間内での制作 吉田
13	実技対策実習④	制限時間内での制作 吉田
14	学科試験対策実習①	フラワー装飾一般・作業方法・植物一般・安全衛生について 吉田
15	学科試験対策実習②	過去問題・練習問題 吉田

注意事項	フラワー装飾技能士3級取得者、実務経験2年以上のものは履修・受検可能です。2級保持者も履修可能です。1年生で履修希望する場合は担当教員と協議し「相互科目履修」を申請し許可を受け、履修することが出来ます。授業内のみでの練習では、合格は難しいです。授業外も練習する意欲や、花材費などのことも良く考えて履修してください。
学生へのメッセージ	2級合格目指しましょう。成績優秀者は全国技能五輪大会への出場のチャンスがあります。

科 目				担当教員(○主担当)					
花修景実習Ⅲ				○相田 明・新井 俊宏☆・上野 恵☆(非常勤講師)					
授業形態	実習	開講時期	2年前期	時間数	30	区分	選択	分野	造園
背景と目的	花修景実習Ⅱに続き、学内のボーダーガーデン及び学外の花フェスタ記念公園を実習地とするこの実習は、一・二年草や宿根草、さらに樹木の植栽計画・管理の習得を目的とする。								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公園における花修景の年間管理を理解する。</li> <li>・宿根草の芽吹きなど成長過程を観察することにより植物を見分けることができる。</li> <li>・ボーダーガーデンの植栽計画及び管理ができる。</li> </ul>								
授業外の学習	野帳の提出。ボーダーガーデンに植栽されている個々の植物の季節的な変化を観察する。花修景について関心が高い学生は花フェスタ記念公園実習フィールドの管理。								
評価方法	出席率、取組姿勢、提出物								
教科書	『小さくても素敵な花壇づくり』(講談社)								
参考書	『ガーデン植物大図鑑』(講談社)								
関連する資格	—								

※☆のある教員は実務経験有り

授業計画			
実習・演習の進め方	花フェスタ記念公園の実習ではバスを利用し移動する。		
回	項 目	授業内容	
1	夏花壇の植栽①	一・二年草などの植栽(花フェスタ記念公園)①	新井・相田・上野
2			
3	夏花壇の植栽②	一・二年草などの植栽(花フェスタ記念公園)②	新井・相田・上野
4			
5	ボーダーガーデンの植栽①	宿根草などの植栽①	相田・新井
6			
7	ボーダーガーデンの植栽②	宿根草などの植栽②	相田・新井
8			
9	夏花壇の管理	植栽管理と生育調査(花フェスタ記念公園)	新井・相田・上野
10			
11	ボーダーガーデンの管理①	宿根草などの管理、株分け・鉢上げ①	相田・新井
12			
13	ボーダーガーデンの管理②	宿根草などの管理、株分け・鉢上げ②	相田・新井
14			
15	夏花壇の植栽③	一・二年草などの植栽(花フェスタ記念公園)③	新井・相田・上野

注意事項	実習ではハサミ、手袋、帽子、作業しやすい服装が必要。
学生へのメッセージ	ボーダーガーデンは日々変化する庭です。日々管理しなければ、維持することができない庭です。四季の変化のあるボーダーガーデンをつくりましょう。

科 目					担当教員(○主担当)				
造園施工・管理実習Ⅲ					○新井 俊宏☆・相田 明・佐竹 康太郎☆(非常勤講師)・ 藤吉 栄一☆(非常勤講師)・渡邊 三好☆(非常勤講師)				
授業形態	実習	開講時期	2年前期	時間数	60	区分	選択	分野	造園
背景と目的	『造園施工・管理実習Ⅰ、Ⅱ』で行った実習の一部を再度行い、技術を確実に習得するとともに、卒業制作に向けて必要となる造園技術の習得を目標とする。 施工実習では、これまでの実習で得た技術を生かして、学内外に造園施設を制作する。管理実習では、学内庭園や植物について時期や生育特性に合わせた管理方法について年間を通じた実習をする。								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・造園植物(樹木、下草、芝生など)の生育特性を踏まえた管理方法を習得する。</li> <li>・造園施設(張り芝、石積み、園路、景石など)の施工方法を習得する。</li> <li>・造園空間の特性を理解する。</li> </ul>								
授業外の学習	・学内造園空間のエリア管理を必要に応じ行うこと。								
評価方法	出席率、取組姿勢、提出物								
教科書	『造園施工必携』(日本造園組合連合会)								
参考書	『造園技術ハンドブック』(誠文堂新光社)								
関連する資格	2級・3級造園技能士、2級造園施工管理技士								

※☆のある教員は実務経験有り

授業計画		
実習・演習の進め方	学内の庭園や植栽地をフィールドとして、造園施工作業及び造園管理作業の実習を行う。 学外施工は花フェスタ記念公園で造園空間を制作する。 学外での造園空間調査も行う。	
回	項 目	授業内容
1	造園管理①	学内造園空間の管理 新井・相田
2	造園管理②	芝生の土壌改良 新井・相田
3	造園管理③	学外小庭園の管理(花フェスタ記念公園) 新井・相田
4	造園管理④	学外小庭園の管理(花フェスタ記念公園) 新井・相田
5	造園管理⑤	学内造園空間の管理 新井・相田
6	造園管理⑥	常緑樹、落葉樹の剪定 佐竹・新井・相田
7	造園空間調査	庭園施工事例の視察調査(愛知県) 佐竹・新井
8	造園施工①	自然石野面摘み(地ならし、丁張、石積み) 藤吉・新井
9	造園施工②	自然石野面積み(石積み) 藤吉・新井
10	造園管理⑦	学外小庭園の管理(花フェスタ記念公園) 新井・相田
11	花フェスタ記念公園実習フィールド小庭園の施工	準備工 渡邊・新井・相田
12		敷地造成工・石組工 新井・相田
13		石組工 新井・相田
14		園路工 新井・相田
15		植栽工 新井・相田

注意事項	<p>実習時は作業着、グローブ、保護帽などを着用すること。</p> <p>天候などの理由により実習内容を変更する場合がある。</p> <p>夏期の高温時の作業では、熱中症防止のため帽子を着用し水分補給をすること。</p> <p>体調管理を十分にすること。</p>
学生へのメッセージ	1年生で学んだ知識や技術を、より確実に身につけられるように取り組んでください。

科 目					担当教員(○主担当)				
造園計画演習					○相田 明・新井 俊宏☆				
授業形態	演習	開講時期	2年前期	時間数	30	区分	選択	分野	造園
背景と目的	学内と花フェスタ記念公園の岐阜県立国際園芸アカデミー実習フィールドで施工する小庭園の設計を行う。卒業研究・卒業制作Ⅰや造園施工・管理実習Ⅲの授業と関連を持たせながら、構想、計画、設計の一連の流れを理解することを目的とする。								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・縮尺の概念と感覚を理解する。</li> <li>・発想力、デザイン力、プレゼンテーション力を高める。</li> </ul>								
授業外の学習	課題図面の作成。								
評価方法	出席率、取組姿勢、プレゼンテーション、成果物								
教科書	『造園施工必携』(日本造園組合連合会)								
参考書	『ガーデンデザインのプレゼンテクニック』(彰国社)								
関連する資格	—								

☆☆のある教員は実務経験有り

授業計画		
実習・演習の進め方	小庭園の設計は学内と花フェスタ記念公園で施工する図面を作成する。	
回	項 目	授業内容
1	学内小庭園の構想	設計作業の流れと基礎調査(現地測量、現況図・計画平面図の作成、構想立案)
2		
3	学内小庭園の計画・設計	個人案の作成
4		
5	学内小庭園のプレゼンテーション	各自案の提示、質疑応答・講評
6		
7	花フェスタ記念公園実習フィールド小庭園の構想	全体構想(テーマ・コンセプトの設定)、基本構想・基本計画(ゾーニング・動線計画・園路計画など)
8		
9	花フェスタ記念公園実習フィールド小庭園の計画・設計①	平面図・立面図・断面図・詳細図、イメージスケッチの作成
10		
11	花フェスタ記念公園実習フィールド小庭園の計画・設計②	平面図・立面図・断面図・詳細図、イメージスケッチの作成
12		
13	花フェスタ記念公園実習フィールド小庭園のプレゼンテーション	各自案の提示、質疑応答・講評
14		
15	まとめ	学内、花フェスタ記念公園小庭園のまとめ

注意事項	—
学生へのメッセージ	これまで学んだことを生かしながら、設計を進めましょう。

科 目					担当教員(○主担当)				
2級造園技能検定対策実習					○新井 俊宏☆・相田 明・藤吉 栄一☆(非常勤講師)				
授業形態	実習	開講時期	2年前期	時間数	30	区分	選択	分野	造園
背景と目的	造園技能士資格検定は造園に関するさまざまな知識と技能の検定を行い、その合格者だけに与えられる国家資格である。造園技能士は、一般のご家庭の庭づくりや維持管理ばかりでなく、大規模な公共工事では現場に参加することが義務づけられるなど、社会的な必要性は益々高まっている。 この授業では2級造園技能検定試験に合格するための知識、技術を習得することを目標とする。								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学科試験の合格水準に達する知識を習得する。</li> <li>・実技試験の課題制作が、規定時間内に規定の寸法どおりに完成することができる。</li> <li>・実技試験の要素試験に出題される樹木を判別することができる。</li> </ul>								
授業外の学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学科試験対策は希望者に補講を行うが、受講にあたっては各自予習、復習を行うこと。</li> <li>・実技試験の練習は授業外にも自主的に行うこと。</li> <li>・練習場の区画整備は授業時間外で行う。受講者は必ず参加すること。</li> </ul>								
評価方法	出席率、取組姿勢、実技試験								
教科書	『造園実技作業の手引き』(日本造園組合連合会)、『造園技能検定学科試験問題集』(日本造園組合連合会)								
参考書	『2級造園技能検定 DVD』(日本造園組合連合会)								
関連する資格	2級造園技能士								

※☆のある教員は実務経験有り

授業計画		
実習・演習の進め方	6月～8月に検定試験日程に合わせて集中開講する(一部夏季休業中に実施)。 学科試験対策は、受験の手引きに掲載されている過去問題を解きながら解説を行う。 実技試験の課題制作対策は、練習場において、繰り返し課題を制作して練習する。 実技試験の要素試験対策は、学内の樹木枝を標本木として枝、葉、芽などの特徴を覚える。	
回	項 目	授業内容
1	学科・実技試験概要	学科・実技試験対策講義 新井
2	実技試験対策①	実技試験課題の練習①(竹垣) 藤吉・新井
3		
4	実技試験対策②	実技試験課題の練習②(竹垣) 藤吉・新井
5		
6	学科試験対策	過去問題による学科試験対策 新井
7	実技試験対策③	要素試験対策 新井
8	実技試験対策④	実技試験課題の練習③(敷石、縁石、飛石) 藤吉・新井
9		
10	実技試験対策⑤	実技試験課題の練習④(制限時間内の練習) 藤吉・新井
11		
12	実技試験対策⑥	実技試験課題の練習⑤(制限時間内の練習) 新井
13		
14	実技試験対策⑦	実技試験課題の練習⑥(制限時間内の練習) 新井
15		

注意事項	担当教員と事前に相談の上、「相互科目履修申請書」を提出し、許可を受けた1年生も履修することができる。天候などの理由により実習日程を変更する場合がある。夏期高温時の作業となるため、熱中症防止のため帽子を着用し水分補給をするなど、体調管理を十分にすること。
学生へのメッセージ	国家試験を通して造園の奥深さや面白さを体験してください。

科 目					担当教員(○主担当)				
商品動向リサーチⅡ					○井上 守☆				
授業形態	実習	開講時期	2年前期	時間数	30	区分	必修	分野	共通
背景と目的	一般に植物の呼称は和名、学名、英名、品種名、俗名などが錯綜しており、小売店、ガーデンセンターなどの現場において、植物名を正しく扱うことは複雑で難しいと感じている社員が少なくない。そこで、本授業では、商品動向リサーチⅠから引き続き、集大成として年間取り扱い上位 300 品目の学名や管理方法などを学習し、就職先で頼りにされる存在になることを目的とする。								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・取り扱い上位 300 品目に学名や管理方法について知っている。</li> <li>・植物について正しい情報発信ができる。</li> <li>・植物の特性を理解して、正当な付加価値をつけた商品企画、提案ができる。</li> <li>・MS エクセルにおいて、植物名、植物管理方法をまとめたデータベースを作成できる</li> </ul>								
授業外の学習	植物の写真を撮るだけで、名前や詳細をしてくれるアプリ「PlantSnap」をダウンロードして、試してみましょう。								
評価方法	データベースの作成成果、試験								
教科書	『日本花名鑑 4』(アボック社)								
参考書	『学生に役立つ Microsoft Excel 2013 応用』 FOM 出版								
関連する資格	-								

☆☆のある教員は実務経験有り

授業計画		
実習・演習の進め方	商品動向リサーチⅠで学習した秋冬期 200 品目に続き、春夏期のみが登場する上位 100 品目を加えた 300 品目のリストが渡され、花木センターでリストの植物を探し撮影して、MS エクセルにて 300 品目のデータベースを作成する。最後に 300 品目について、写真から植物名を同定する確認試験を行う。	
回	項 目	授業内容
1	ガイダンス	授業の進め方 井上
2	植物の調べ方、撮影方法	図鑑やインターネットを利用した植物の調べ方と撮影の基礎 井上
3	花木センターでの写真撮影 (5月)	日本ライン花木センターでの苗物、鉢物、樹木の写真撮影・調査。季節ごとの品目の解説 井上
4		
5	外部データソースを利用したデータベース作成	ピボットテーブル、VLOOKUP を用いてのデータベース作成 井上
6		
7	花木センターでの写真撮影 (7月)	日本ライン花木センターでの苗物、鉢物、樹木の写真撮影・調査。季節ごとの品目の解説 井上
8		
9	データベース作成、植物調べ	データ整理、画像処理等、図鑑による植物調べ 井上
10		
11	花木センターでの写真撮影 (9月)	日本ライン花木センターでの苗物、鉢物、樹木の写真撮影・調査。季節ごとの品目の解説 井上
12		
13	データベース作成、植物調べ	データ整理、画像処理等、図鑑による植物調べ 井上
14		
15	試験	筆記試験 井上

注意事項	デジカメ、USB メモリが必要。「外部記録媒体学内利用申請書」を提出する必要あり。
学生へのメッセージ	素晴らしいイベントの企画や商品提案のセンスは、突然頭にひらめくものではありません。実は確かな植物の基本的知識から生まれているのです。一緒に汗を流しましょう。

科 目				担当教員(○主担当)					
植物管理基礎実習Ⅲ				○前田 宝秀・臼田 浩通・吉田 久美子☆・林 誠☆・相田 明・新井 俊宏☆・井上 守☆・佐藤 智茂☆					
授業形態	実習	開講時期	2年前期	時間数	30	区分	必修	分野	共通
背景と目的	生産・装飾・造園の各分野において、四季を通じて植物を管理するための知識および技術は必ず習得すべきものである。また、習得した知識・技術を他人に伝える能力は、社会で働く上で重要である。本実習では、植物管理基礎実習Ⅰ・Ⅱを通じて1年間学んできた植物管理知識、技術、経験を1年生に伝えることで、自分自身のレベルを再確認するとともに、どのように相手に対して自分が持っている知識、技術、経験を伝えれば良いのかを学ぶ。								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・春夏季における植物の種類による管理方法の違いを理解する。</li> <li>・春夏季における灌水技術を習得する。</li> <li>・春夏季における温室の管理技術を習得する。</li> <li>・上記の知識・技術を他者に伝達する能力を身に付ける。</li> </ul>								
授業外の学習	植物管理基礎実習Ⅰの週間レポートを見直して、季節ごとの管理方法の復習をしてから実習に臨むこと。また、実習後に週間レポート用紙に当日の気温・天候・作業内容・1年生への指導内容等を記入すること。								
評価方法	出席率、取組姿勢、週間レポート								
教科書	-								
参考書	-								
関連する資格	-								

※☆のある教員は実務経験有り

授業計画		
実習・演習の進め方	原則1週間(水曜日～翌週火曜日)を単位として管理業務を行う。履修時間に達するよう学生の班編制を行い、半期の計画を作成して実習を行う。学生の班編制は、季節の作業内容や管理するエリア等を考慮して人数を決める。1年生1名に対して2年生1名が原則として組み、当番教員が植物管理について指導を行う。	
回	項 目	授業内容
1	植物の種類と管理	植物の種類に応じた管理方法を習得する。 週担当教員
2		
3	土壌と灌水①	土壌の性質と水管理について学ぶ。 週担当教員
4		
5	土壌と灌水②	自動灌水と手灌水による管理技術を習得する 週担当教員
6		
7	植物の生長・開花①	環境(温度・光・水・風)の変化による植物の生長の違いを学ぶ。 週担当教員
8		
9	植物の生長・開花②	植物の特性に応じた環境調節(遮光、保温、暖房等)技術を習得する。 週担当教員
10		
11	植物の総合管理	花殻摘み・除草などの植物維持管理技術を習得し、また、病害虫の生態についても学ぶ。 週担当教員
12		
13	1年生への指導	植物管理について習得した知識・技術を1年生に伝達し指導を行う。 週担当教員
14		
15	レポート作成	学習進捗のチェックを行う。 週担当教員

注意事項	半期の計画に基づき、おおむね1週間の当番を複数回行う。 実習時間は原則として、朝8時から8時45分、夕方16時35分から17時5分までとする。 祝日および長期休暇期間中も行う。
学生へのメッセージ	植物管理基礎実習Ⅰ・Ⅱを通じて身に付けた植物管理についての知識・技術を再確認すると同時に、1年生への管理指導を行うことでさらなるスキルアップを目指して下さい。



科 目				担当教員(○主担当)					
キャリアデザインⅡ				○佐藤 智茂☆・今西 良共☆					
授業形態	講義	開講時期	2年前期	時間数	30	区分	必修	分野	共通
背景と目的	若年就業者層の短期的な離転職、また経済的に不安定な状況の長期化など、安定したキャリア形成や収入確保に関する厳しい就労・勤労環境は今もお続いていると考えられる。 こうした課題に学生自らが一人の職業人として又個人として対応できるよう、知っておくべき労働や租税に関する基礎的な法律知識、また他者と協働できる創造的な人材となるためのディスカッションスキルを学ぶ。								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活設計の立て方(主に金銭・給与面)を理解する。</li> <li>建設的なディスカッション(討論)の“やり方”を理解する。</li> <li>基本的な労働法規、租税法規を理解する。</li> </ul>								
授業外の学習	授業内容の復習をしっかりと行うこと。折々に内容確認を目的とした小テストを行う。								
評価方法	提出物、受講態度								
教科書	-								
参考書	-								
関連する資格	-								

☆☆のある教員は実務経験有り

授業計画			
回	項 目	授業内容	
1	オリエンテーション (ライフプラン作成)	就職活動の大切さを知り、今後学ぶ知識の必要性・重要性を知る	佐藤
2	就職活動の全体像を知る	面接試験以降の一般的な就職活動の流れ、面接突破のポイントを学ぶ(映像資料使用)	佐藤
3			
4	グループ討議(会議)の実践	ディスカッションを通じた意思疎通や合意形成、生産性の向上について体感する	佐藤
5			
6			
7			
8	新卒社員にかんする様々なデータ紹介、求人票の見方	各種統計データの紹介を通じた会社・職業選択の重要性を知り、求人票を見る(内容を読む)場合のポイントを学ぶ	佐藤
9			
10	労働法規の基礎知識	働く人を守る法律である“労働法”の基本を学ぶ	佐藤
11			
12	給与明細の見方、租税法規(所得税中心)の基礎知識	給与明細と源泉徴収票(給与所得)の見方、給与等にかかる税金や社会保険料等、そして「国民の義務」である納税について学ぶ	佐藤
13			
14			
15	まとめ	『キャリアデザインⅠ・Ⅱ』の最終講義にあたり(学長講義「私の職業人生」)	今西・佐藤

注意事項	第8回～14回講義は開講の順序を変更する場合もある。
学生へのメッセージ	新しい時代を生きる若い人に求められる多様性への寛容(自分と違う意見や観点を受容する)を実感し、働く人に保証されている権利を、そして社会の構成員として担う義務(納税)に関する正しい知識を学びましょう。この授業はアカデミーを巣立つ皆さんへ、担当教員からの“贈り物”です。

科 目					担当教員(○主担当)				
海外視察研修					○新井 俊宏☆・今西 良共☆・井上 守☆・吉田 久美子☆・相田 明・各コース担当教員				
授業形態	実習	開講時期	2年前期	時間数	90	区分	必修	分野	共通
背景と目的	グローバル化の流れは園芸業界にも押し寄せ、もはや好むと好まざるに関わらずに対応してゆかねばならない。そこで、世界最大規模のチェルシーフラワーショウの開催に合わせて英国を訪問し、最新のフラワーデザインやガーデン展示と花き関連施設を視察し、国際都市ロンドンの園芸産業の動向を理解する。また、ロンドンやコッツウォル地方の伝統的な有名庭園をめぐり、イングリッシュガーデンの普遍的な魅力を理解することで、園芸の新、旧の魅力を融合して、園芸に関する理解を深めると共に国際感覚を養う。								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・チェルシーフラワーショウ及び国際都市ロンドンで、フラワー、ガーデンの最新のデザインを知る。</li> <li>・英国の有名庭園を知る。</li> <li>・英国の花き流通施設を知る。</li> <li>・海外体験を通して国際感覚を養う。</li> </ul>								
授業外の学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究内容に関して事前に下調べを行っておくこと。</li> <li>・現地での聞き取り調査が必要な場合は、事前に調査内容の英訳を作成しておくこと。</li> </ul>								
評価方法	研究内容、取組姿勢、発表会内容及び態度								
教科書	-								
参考書	-								
関連する資格	-								

※☆のある教員は実務経験有り

授業計画		
実習・演習の進め方	視察は7泊9日でコッツウォルズ3泊、ロンドン4泊。5月19日～5月27日を予定。	
授業計画		
回	項 目	授業内容
1	ガイダンス	概要説明 今西・新井
2	事前研修①	旅の心得、キューガーデン 井上
3	事前研修②	英国園芸の歴史とその特徴 相田
4	事前研修③	ヨーロッパデザイン 吉田
5	事前研修④	研究のテーマ設定 各コース担当教員
6	海外視察研修①	<コッツウォルズ地区> ポートンオンザウォーター、ヒドコートマナーガーデン、キフツゲートコートガーデン 新井
7	海外視察研修②	バイブリー、スードリー城、プレナム宮殿 新井
8	海外視察研修③	<ロンドン地区> フラワービジョン、ウィズリーガーデン 新井
9	海外視察研修④	チェルシーフラワーショウ 新井
10	海外視察研修⑤	グレートディクスターガーデン、シンシングハーストカースルガーデン 新井
11	海外視察研修⑥	班別テーマ視察 新井
12	海外視察研修⑦	キューガーデン 新井
13	発表準備①	発表にむけて準備 各コース担当教員
14	発表準備②	発表にむけて準備 各コース担当教員
15	発表	プレゼンテーション 各コース担当教員

注意事項	諸事情により海外視察研修に参加できない場合は、担当教員と相談のうえ、国内研修に振り替えることができる。また、渡航先の諸事情により、視察先が変更となる場合がある。
学生へのメッセージ	チェルシーフラワーショウが開催される5月後半は、園芸業界は繁忙期で一度就職してしまうと、なかなか見に行くチャンスはありません。若いうちにチェルシーを見て刺激を受ける事ができるのは学生の特権といえます。

科 目					担当教員(○主担当)				
起業・経営シミュレーション					○佐藤 智茂☆				
授業形態	講義	開講時期	2年前期	時間数	30	区分	選択	分野	共通
背景と目的	<p>営利(非営利も含む場合有)組織の活動目的は、経営資源の最適配分を通じた組織運営を行い、獲得できる利潤の最大化を図ることであり、私たちの“働く”という行為は、この経営活動に参加しているということでもある。</p> <p>自らが起業したと想定し、経営資源をどのように活用して利潤を獲得し目標を達成し、自分にとっての“働く意味や意義”を改めて考える機会とする。</p>								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経営理念、ビジョンといった『上位概念』の重要性を学ぶ。</li> <li>・簡単な経営計画書(損益計算書ベース)の作成スキルを学ぶ。</li> <li>・“利益”と“キャッシュ(現金)”の違い(単純化したキャッシュフロー計算)を学ぶ。</li> <li>・働く際に「組織における自らの役割と貢献」を理解する。</li> </ul>								
授業外の学習	授業内容の復習はその都度しっかり行ってください。折々に理解度確認のための小テスト等を実施します。								
評価方法	受講態度、提出物、最終発表(プレゼンテーション)								
教科書	-								
参考書	『もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの『マネジメント』を読んだら』(ダイヤモンド社)、『もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの『イノベーションと企業家精神』を読んだら』(ダイヤモンド社)								
関連する資格	-								

※☆のある教員は実務経験有り

授業計画		
回	項 目	授業内容
1	ガイダンス	授業の概要説明 佐藤
2	基本理論講義①	わかりやすいマクロ経済 佐藤
3	基本理論講義②	組織にとって“目指すもの”の大切さ(映像視聴) 佐藤
4	基本理論講義③	働く人にとって“目指すものへの想い”の大切さ(映像視聴) 佐藤
5	基本理論講義④	企業の組織にかんする基本的知識 佐藤
6	基本理論講義⑤	経営資源としての“カネ”を考える(映像視聴) 佐藤
7	プレゼンテーション	これまでの講義を踏まえた“起業計画”を発表(途中経過) 佐藤
8	基本理論講義⑥	財務会計の基本 その①(損益計算書) 佐藤
9	基本理論講義⑦	財務会計の基本 その②(貸借対照表) 佐藤
10	基本理論講義⑧	財務会計の基本 その③(利益とキャッシュの関係) 佐藤
11	基本理論講義⑨	管理会計の基本(固定費と変動費、CVP分析) 佐藤
12	基本理論講義⑩及び演習①	予想損益計算・資金繰りの検討と計画表の作成について 佐藤
13	演習②	予想損益計算書・簡易資金繰り計画表の作成演習 佐藤
14	演習③	予想損益計算書・簡易資金繰り計画表の作成演習 佐藤
15	プレゼンテーション	“起業計画”(最終)の発表及び相互批評 佐藤

注意事項	<p>受講希望者は「基礎会計」の履修を推奨(又は日商簿記3級水準以上の簿記・会計知識保有)する。</p> <p>受講者の理解程度を勘案し、授業内容・進捗等を変更する場合がある。</p> <p>授業時に随時映像資料(テレビ番組等)を視聴する機会がある。</p>
学生へのメッセージ	<p>授業タイトルに『起業・経営』とありますが、働く人(ビジネスパーソン)すべてにとって学ぶ価値のある学習内容であると考えています。学習負荷(予習・復習・課題)は掛かりますが、未来の自分への価値ある投資と考え、興味を持った学生は是非チャレンジしてください。</p>

科 目		担当教員(○主担当)							
園芸文化研修		○今西 良共☆・武田 純☆(客員教授)・鹿野 陽子☆(客員教授)・加藤 友規☆(非常勤講師)・小笠原誓☆(非常勤講師)・渡辺 雅子☆(非常勤講師)・新井 俊宏☆・佐藤 智茂☆							
授業形態	実習	開講時期	2年前期	時間数	30	区分	選択	分野	共通
背景と目的	人は植物を観ること、食すること、活用することを通じて自らの生活・環境をより豊かなものにしてきた長い歴史があり、私たちと植物、引いては園芸・造園は切っても切れない強い結びつきがある。 この授業では、歴史・文化の一大集積地である京都を訪ね、日本の園芸・造園の歴史を体現している都市公園や文化財庭園などを視察し、伝統文化に対する見聞を広げ、考察を深める。								
到達目標	・日本の園芸・庭園文化を体感し、自らの見識を養う。 ・これまでに学んできた「花と緑」に関する知識や技能と園芸文化との繋がりを理解する。 ・園芸・造園の社会的意義、長い歴史に培われて来た文化的景観に触れ、考察を深める。								
授業外の学習	配布資料を通読し、必要に応じ各自にて事前または事後の予備学習を行うこと。 視察先ごとにレポートとしてまとめておくこと。								
評価方法	取組姿勢、レポート								
教科書	-								
参考書	-								
関連する資格	-								

※☆のある教員は実務経験有り

授業計画		
実習・演習の進め方	京都視察研修は8月(夏季休暇中)に集中授業(2泊3日)として実施予定である。	
回	項 目	授業内容
1	ガイダンス	京都視察への準備、視察先の事前レクチャー 今西・新井・佐藤
2	京都視察研修(1日目)	①講義:造園の思想と技法 ②視察:梅小路公園(朱雀の庭を主に) 武田・鹿野・今西・新井・佐藤
3		
4		
5	京都視察研修(2日目)	南禅寺、無鄰菴、對龍山荘 等 加藤・武田・鹿野・今西・新井・佐藤
6		
7		
8	京都視察研修(3日目)	視察:天龍寺庭園及び嵐山公園界隈(文化財庭園・景観) 武田・鹿野・今西・新井・佐藤
9		
10		
11	江戸の園芸文化	江戸時代の資料を見ながら当時の園芸文化を知る 小笠原・今西
12		
13		
14	暮らしの中の園芸文化	日本人と植物の関わり・繋がり 渡辺・佐藤

注意事項	京都研修における移動交通手段は本学マイクロバスを利用する予定である。また京都研修にかかる諸費用は全て現地にて現金払いとなる。 京都研修時の服装や夜間行動等、団体行動であるため指導教員の指示に従う必要がある。
学生へのメッセージ	『千年の都』とも称される京都の文化財庭園・都市公園・文化的景観を訪ね、そして観ることを通して日本の園芸文化を肌で感じ、学んでください。

科 目					担当教員(○主担当)				
職場体験実習Ⅱ					○各コース担当教員・佐藤 智茂☆				
授業形態	実習	開講時期	2年前期	時間数	60	区分	選択	分野	共通
背景と目的	新卒者の3年内離職率(厚生労働省調べ。短大等卒)は過去40%を超えており、就業後のミスマッチによる労使双方の不利益が発生していると考えられる。この科目では、学生が受入先企業・団体等で「実際に職務に臨むための姿勢や態度」を実践し、今後の進路・職業選択に活かし、そして今後の授業に積極的な参加をすることを目的とする。								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会人として、組織の一員として働くことの心構えやマナーを習得する。</li> <li>・受入先企業・団体等の一般的な仕事内容に関して、体験に基づいた知見を得る。</li> </ul>								
授業外の学習	返却された『日報』をしっかりと通読する時間を設け、自らの体験学習を“顧みて”ください。								
評価方法	受入先企業・団体の評価、日報、報告書								
教科書	-								
参考書	-								
関連する資格	-								

※☆のある教員は実務経験有り

授業計画		
実習・演習の進め方	①担当教員との十分な事前打ち合わせ→②受入先企業・団体等の社員の指導下で7日間以上の業務従事→③報告書作成・提出。	
回	項 目	授業内容
1	担当教員面談	受入先企業・団体や従事期間等の検討 各コース担当教員
2	インターンシップ実施	受入先企業・団体等での業務に従事(実習) 各コース担当教員
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15	報告書作成	提出する報告書の作成 各コース担当教員

注意事項	受入先企業の選定や事前の準備など、所属するコースの教員と十分に相談を行うこと。 「業務従事中は受入先企業の一員である」意識を持ち、立ち居振る舞い(ビジネスマナー)に注意し、また実習時は不注意による怪我や器物の破損など、事故のないよう十分に留意すること。
学生へのメッセージ	選択授業ですので、『職場体験実習Ⅰ』以上に自分なりのテーマ(主題)を持ち、就職を検討している業界・業種・企業の“仕事”を学び、今後の学習への動機付けとなるよう努めてください。

科 目					担当教員(○主担当)				
卒業研究・卒業制作 I (花き生産コース)					○臼田 浩通・前田 宝秀				
授業形態	演習	開講時期	2年前期	時間数	60	区分	必修	分野	共通
背景と目的	研究課題を個別で設定し、調査・研究に取り組む。ここでは、主に予備的な調査・研究を行う。PDCA サイクルを活用し、課題解決能力の向上を図る。PDCA サイクルとは Plan(計画)→Do(実行)→Check(評価)→Action(見直し)というサイクルであり、課題解決法としてよく用いられる手法のことである。								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題解決力が身につく。</li> <li>・PDCA サイクルを理解する。</li> </ul>								
授業外の学習	生育調査等のデータ整理や課題解決に必要な文献の検索等は、空き時間を利用して行うこと。								
評価方法	出席率、取組姿勢								
教科書	-								
参考書	-								
関連する資格	-								

授業計画		
実習・演習の進め方	個別課題を設定し、調査・研究を行う。 PDCA サイクルを活用する。	
回	項 目	授業内容
1	個別課題の設定①	個別課題の設定に向けた調査① 臼田・前田
2	個別課題の設定②	個別課題の設定に向けた調査② 臼田・前田
3	課題解決法の計画①	課題解決に向けた計画の作成① 臼田・前田
4	課題解決法の計画②	課題解決に向けた計画の作成② 臼田・前田
5	課題解決法の発表	課題と課題解決法のプレゼンテーション 臼田・前田
6	課題解決における計画の実行①	計画に従って課題解決の遂行① 臼田・前田
7	課題解決における計画の実行②	計画に従って課題解決の遂行② 臼田・前田
8	課題解決における計画の実行③	計画に従って課題解決の遂行③ 臼田・前田
9	課題解決における計画の実行④	計画に従って課題解決の遂行④ 臼田・前田
10	課題解決における計画の実行⑤	計画に従って課題解決の遂行⑤ 臼田・前田
11	結果の評価①	計画を実行結果の評価① 臼田・前田
12	結果の評価②	計画を実行結果の評価② 臼田・前田
13	評価の見直し①	評価した結果の見直し① 臼田・前田
14	評価の見直し②	評価した結果の見直し② 臼田・前田
15	結果発表	課題解決の取り組みのプレゼンテーション 臼田・前田

注意事項	鉢物、苗物および切り花の栽培技術等に関する研究テーマとする。
学生へのメッセージ	PDCA サイクルを意識して、卒業研究を遂行しましょう。

科 目					担当教員(○主担当)				
卒業研究・卒業制作 I (花き装飾コース)					○吉田 久美子☆・林 誠☆・國井 理佐☆(非常勤講師)・ 長縄 律子☆(客員教授)				
授業形態	演習	開講時期	2年前期	時間数	60	区分	必修	分野	共通
背景と目的	これまで学んできた花き装飾の知識と技術の集大成として、実践的な装飾技術の修得を目的とし、Ⅱに向けての個人卒論テーマへの序章とします。 主にここではグループ活動としてミーティングを繰り返し話し合いブライダルやフューネラルなど会場装花の制作に取り組み、セレモニーのトータルコーディネートを経験し学びます。								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・デザイン力、提案力、応用力、コミュニケーション能力を身に付ける。</li> <li>・各自の得手不得手を見出し、後期個人課題への研究テーマや自ら適性のある職種を見つける。</li> <li>・セレモニーのトータルコーディネートを経験し空間を花で飾る技術を身につける。</li> </ul>								
授業外の学習	予定や計画、準備や進行状況などグループでミーティングを行っておくこと。								
評価方法	出席率、取組姿勢、筆記試験、実技試験、レポート								
教科書	—								
参考書	—								
関連する資格	2級・3級フラワー装飾技能士 2級・3級園芸装飾技能士								

※☆のある教員は実務経験有り

授業計画		
実習・演習の進め方	グループでミーティングを行いデザイン・コンセプトを考えます。 グループでブライダルやフューネラルなどの会場装花を制作しセレモニーのトータルコーディネートを行います。	
回	項 目	授業内容
1	フューネラル装花①	フューネラル装花の全容 長縄・吉田・林
2	フューネラル装花②	フューネラル装花の企画 長縄・吉田・林
3	フューネラル装花③	フューネラル枕花の制作 長縄・吉田・林
4	フューネラル装花④	フューネラル装花の制作 長縄・吉田・林
5		フューネラル装花のメンテナンス・撤去 長縄・吉田・林
6	指導力の会得	「花と緑の連携授業」「オープンキャンパス」などのアシスタント指導 吉田・林
7	ブライダル装花①	ブライダル装花の全容 國井・吉田・林
8	ブライダル装花②	ブライダル装花の企画 國井・吉田・林
9	ブライダル装花③	ブライダル装花の花材調達 吉田・林
10		ブライダルブーケの制作 國井・吉田・林
11	ブライダル装花④	ブライダル装花の制作 國井・吉田・林
12		ブライダル装花のメンテナンス・撤去 國井・吉田・林
13	まとめ	装花制作の考察・まとめ 吉田・林
14	試験	コサージュ・ヘッドピース制作・筆記試験 國井・吉田・林
15		ブライダルブーケ制作(テーマに基づき各自花材調達) 國井・吉田・林

注意事項	第4・5回、第9・10回、第11・12回、第14・15回は、全日授業です。
学生へのメッセージ	みんなで感動を与えるような会場装花を制作しましょう。

科 目					担当教員(○主担当)				
卒業研究・卒業制作Ⅰ(造園緑化コース)					○相田 明・新井 俊宏☆・野村 勤治☆(非常勤講師)				
授業形態	演習	開講時期	2年前期	時間数	60	区分	必修	分野	共通
背景と目的	本実習では、前半は小庭園づくり、後半では卒業研究・卒業制作Ⅱに向けて現地調査と計画を行う。これらを通じて、造園の仕事の流れである、構想、計画、設計、施工、管理について理解することを目的とする。								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・構想、計画、設計、施工、管理の流れを理解する。</li> <li>・自分が担当した工種に責任を持つ。</li> <li>・共同作業の重要性を理解する。</li> </ul>								
授業外の学習	図面作成や資材準備。								
評価方法	出席率、取組姿勢、提出物								
教科書	『造園施工必携』(日本造園組合連合会)								
参考書	—								
関連する資格	—								

※☆のある教員は実務経験有り

授業計画		
実習・演習の進め方	造園計画演習と関連しながら実習を進めていく。小庭園は学内、花フェスタ記念公園で制作する。	
回	項 目	授業内容
1	学内小庭園①	測量 相田・新井
2	学内小庭園②	資材・植物材料の準備 相田・新井
3	学内小庭園③	施工① 相田・新井
4		
5	学内小庭園④	施工② 相田・新井
6		
7	学内小庭園⑤	撤去 相田・新井
8	卒業研究・卒業制作①	対象地の選定と対象地及び周辺の調査 相田・新井
9	卒業研究・卒業制作②	計画地現況測量(平板測量、レベル測量、地形測量)、現況平面図の作成 相田・新井
10	卒業研究・卒業制作③	測量、丁張設置 相田・新井
11	まとめ①	報告書作成① 相田・新井
12		
13	まとめ②	報告書作成② 相田・新井
14		
15	造園作品論	造園作品の紹介 野村・相田

注意事項	施工中は安全に注意すること。
学生へのメッセージ	学生が設計し、自ら施工する授業です。小さな造園空間ですが、実際の現場と同じ工程ですので、卒業後、必ず役に立つでしょう。



科 目				担当教員(○主担当)					
造園工学・施工論				○新井 俊宏☆・三浦 景樹☆(非常勤講師)・渡邊 三好☆ (非常勤講師)					
授業形態	講義	開講時期	2年後期	時間数	30	区分	選択	分野	造園
背景と目的	建設業法で定められている造園工事業では、その専門性に精通している造園施工管理技士の資格を有した人材が必要とされている。造園施工管理技士学科試験合格のためには幅広い出題範囲をカバーした受験対策が必要となる。この授業では現場経験のない学生を対象として、造園施工管理技士2級学科試験合格を目標として指導する。								
到達目標	・2級造園施工管理検定の学科試験について合格水準に達するよう知識を習得する。								
授業外の学習	・各回授業の復習を行うこと								
評価方法	出席率、受講態度、筆記試験								
教科書	『2級造園施工管理試験』(オーム社)								
参考書	『造園施工必携』(日本造園組合連合会)								
関連する資格	2級造園施工管理技士								

※☆のある教員は実務経験有り

授業計画		
実習・演習の進め方	10月末～11月中旬に集中開講する。 学科試験対策は、過去問題を解きながら、ポイントの解説を行う。 施工管理現場の視察を行うとともに、卒業後に受ける実地試験対策についても講義を実施する。	
回	項 目	授業内容
1	施工管理の職能について	資格と実務(講義) 三浦・新井
2	石材、植物以外の主たる造園材料	石材・木材・セメント・タイル・レンガ等 新井
3	植物材料(花壇材料を含む)	分類・特性・品質と規格・繁殖・一、二年草・宿根草・球根植物等 新井
4	土壌と肥料、植生	土壌・肥料・植生 新井
5	植栽計画、移植工、植栽工	調査と計画・植栽施工準備・移植の条件と方法・植栽時期と施工 新井
6	植栽管理	整枝剪定・病害虫 新井
7	公園施設	遊戯施設・屋外運動施設など 新井
8	土工事	盛土と切土・土量の配分・建設機械と施工能力等 新井
9	コンクリート工事、舗装工事、擁壁工事	コンクリートの施工と品質管理・アスファルト舗装・鉄筋コンクリート擁壁等 新井
10	建築工事、設計・測量	木造建築・茶室・測量・設計図書等 新井
11	設備関連工事	建築工事・電気工事・給水工事・排水工事 新井
12	施工管理の実務(学外視察)	施工管理(工程管理・品質管理・安全管理)、現場施工管理の実際 渡邊・新井
13		
14	安全衛生、施工及び施工管理関連法令	安全衛生に関する法令・施工及び施工管理に関連する法令 新井
15	最近の試験動向について	学科試験・実地試験経験記述 三浦・新井

注意事項	申し込みは7月中旬～7月下旬、試験日11月中旬、合格発表は1月中旬である。 在学中は学科試験のみ受験可能である。実地試験は実務経験年数2年以上で受験可能となる。
学生へのメッセージ	造園施工管理技士は、造園施工管理会社、公園管理団体、公務員などの職場で必要となる資格なので、造園分野への就職希望者には学科試験の受験を薦めます。

科 目					担当教員(○主担当)				
公園・緑化概論					○今西 良共☆				
授業形態	講義	開講時期	2年後期	時間数	30	区分	選択	分野	造園
背景と目的	<p>新たな時代に対応する都市公園の管理運営業務を総括的に計画、実行するマネジメント能力を備えた人材が求められています。</p> <p>そのために都市公園・都市緑化に関する基本知識、幅広い意識とビジョンの涵養および最新の知識の習得を図るものです。</p>								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・都市公園・都市緑化に関する基本法令、制度についての基礎知識を習得する</li> <li>・都市環境の改善及び都市の防災性の向上等、今日の都市が直面している課題の解決に資する都市公園・緑化のあり方、都市公園における適切な維持管理等について知識や知見を習得する</li> </ul>								
授業外の学習	公園や街路樹など日常的に関心をもって観察し、写真などに記録すること								
評価方法	出席率、取組姿勢、筆記試験								
教科書	—								
参考書	『公園管理ガイドブック改訂版—公園管理運営のための必携書』（一般社団法人 公園財団）								
関連する資格	公園管理運営士、造園施工管理技士								

授業計画		
回	項 目	授業内容
1	緑の機能と役割	公園とは、緑地とは、公園緑地行政の歩みと概要 今西
2	緑に係る施策と制度の体系	緑の施策体系、緑の制度の体系、緑の基本計画 今西
3	緑に関わる法令	都市公園法、都市緑地法など 今西
4	緑の保全と緑化の推進	施策・事業 今西
5	公園緑地の整備	施策・事業 今西
6	公園緑地の管理運営①	維持管理 今西
7	公園緑地の管理運営②	運営管理、市民協働、指定管理者制度 今西
8	現場視察研修	指定管理の公園(鶴舞公園) 民間活力導入の施設(名城公園) 民間都市開発による緑化(名駅周辺) 今西
9		
10		
11		
12	道路空間緑化①	道路における緑への期待、街路樹の変遷、街路樹の現況 今西
13	道路空間緑化②	道路における法規制等、道路空間の計画と設計、維持管理 今西
14	試験	筆記試験 今西
15	試験の解説	試験の解説 今西

注意事項	視察先は変更する場合がある。
学生へのメッセージ	将来、公園緑地の現場で実務責任者として必要な実務的な知識を幅広く身につけましょう。

科 目					担当教員(○主担当)				
職場体験実習Ⅲ					○各コース担当教員・佐藤 智茂☆				
授業形態	実習	開講時期	2年後期	時間数	150	区分	必修	分野	共通
背景と目的	新卒者の3年内離職率(厚生労働省調べ。短大等卒)は過去40%を超えており、就業後のミスマッチによる労使双方の不利益が発生していると考えられる。この科目では、学生が職場体験実習Ⅰ・Ⅱを踏まえ「仕事に臨む姿勢や態度」を十分に実践できるようになることを目指す。また就職・企業選択など今後の進路選択活動を円滑に行うための、そして今後の授業を自らの抱える学習課題解決の場と捉えるための契機とする。								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の知識・技能水準を改めて見直し、卒業研究・制作等今後の学習活動の課題を掴む。</li> <li>社会人として、組織の一員として働くことの心構えやマナーを実践できる。</li> <li>就職内定(検討)先で研修を行う場合、当該企業の企業活動の概要を理解する。</li> </ul>								
授業外の学習	返却された『日報』をしっかりと通読する時間を設け、自らの体験学習を“顧みて”ください。								
評価方法	受入先企業・団体の評価、日報、発表会内容及び態度								
教科書	-								
参考書	-								
関連する資格	-								

※☆のある教員は実務経験有り

授業計画		
実習・演習の進め方	①担当教員との十分な事前打ち合わせ→②受入先企業・団体等の社員の指導下で15日以上の業務従事→③報告会発表へ向けての振り返りと資料作り→④報告会で発表。	
回	項 目	授業内容
1	担当教員面談	受入先企業・団体等の検討 各コース担当教員
2	インターンシップ実施	受入先企業・団体等での業務に従事(実習) 各コース担当教員
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12	報告会(発表)準備	提出する報告書、報告会で使用するスライド(パワーポイント)作成 各コース担当教員
13	報告会(発表)実施	プレゼンテーション形式による発表 各コース担当教員
14	報告会(出席)	職場体験実習Ⅰ(1年)報告会への出席 各コース担当教員
15		

注意事項	受入先企業・団体等の選定や事前の準備など、各コース担当教員と十分に相談を行うこと。 「業務従事中は受入先企業の一員である」意識を持ち、立ち居振る舞い(ビジネスマナー)に注意し、また実習時は不注意による怪我や器物の破損など、事故のないよう十分に留意すること。 マイスター科1年『職場体験実習Ⅰ』報告会(別日実施)に必ず出席すること。
学生へのメッセージ	これまでに学び得た知識・技能を活かしながらも「本当に現場で必要とされる人材となるには、残された学生生活で何を学ばなければならないのか」を自問自答する機会としてこの授業へ臨んでください。

科 目					担当教員(○主担当)				
卒業研究・卒業制作Ⅱ(花き生産コース)					○臼田 浩通・前田 宝秀				
授業形態	演習	開講時期	2年後期	時間数	270	区分	必修	分野	共通
背景と目的	『卒業研究・卒業制作Ⅰ』の結果を踏まえ、卒業論文作成に向けた調査・研究に取り組む。PDCAサイクルを活用し、課題解決能力の向上を図る。								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題解決力が身につく。</li> <li>・PDCAサイクルを理解する。</li> </ul>								
授業外の学習	生育調査等のデータ整理や課題解決に必要な文献の検索等は、空き時間を利用して行うこと。								
評価方法	出席率、取組姿勢、卒業研究論文、卒業研究発表								
教科書	-								
参考書	-								
関連する資格	-								

授業計画		
実習・演習の進め方	個別課題を設定し、調査・研究を行う。 PDCAサイクルを活用する。	
回	項 目	授業内容
1	個別課題の設定の見直し①	個別課題の見直し① 臼田・前田
2	個別課題の設定の見直し②	個別課題の見直し② 臼田・前田
3	課題解決方法の計画①	見直した課題解決に向けた計画の作成① 臼田・前田
4	課題解決方法の計画②	見直した課題解決に向けた計画の作成② 臼田・前田
5	課題と課題解決方法の発表	見直した課題と課題解決のプレゼンテーション 臼田・前田
6	課題解決における計画の実行①	計画に従って課題解決の遂行① 臼田・前田
7	課題解決における計画の実行②	計画に従って課題解決の遂行② 臼田・前田
8	課題解決における計画の実行③	計画に従って課題解決の遂行③ 臼田・前田
9	結果の評価	計画を実行した結果の評価 臼田・前田
10	評価の見直し	評価した結果の見直し 臼田・前田
11	卒業研究論文作成①	結果のとりまとめと論文の作成① 臼田・前田
12	卒業研究論文作成②	結果のとりまとめと論文の作成② 臼田・前田
13	卒業研究論文作成③	結果のとりまとめと論文の作成③ 臼田・前田
14	卒業研究論文作成④	結果のとりまとめと論文の作成④ 臼田・前田
15	卒業研究論文発表	卒業研究論文の発表 臼田・前田

注意事項	論文作成および発表に向けてしっかりと計画を立てること。
学生へのメッセージ	2年間学んできたことの集大成です。論文を書くことは大変ですが、課題解決に向けてじっくり考え完成させましょう。

科 目					担当教員(○主担当)				
卒業研究・卒業制作Ⅱ(花き装飾コース)					○吉田 久美子☆・林 誠☆・安保 有美☆(非常勤講師)				
授業形態	演習	開講時期	2年後期	時間数	270	区分	必修	分野	共通
背景と目的	今まで学んできたことや、インターンシップからの体験から、己の利点を更に伸ばし、弱点を捜し当て、卒業するまでの何を修得すべきなのかを探し、克服するには、何をどのように学ばなくてはならないのかを各自計画を立て、実践し、職業園芸人となるべき技術を更に身に付けることを目標とします。								
到達目標	・各自の課題設定に基づき、計画を立て、実践的な即戦力を身に付けることを目標とします。								
授業外の学習	図書館にある「フローリスト」「花時間」等を読みアイデア出しを行っておくこと。								
評価方法	出席率、取組姿勢、卒業研究論文、卒業研究発表								
教科書	—								
参考書	—								
関連する資格	2級・3級フラワー装飾技能士、2級・3級園芸装飾技能士								

※☆のある教員は実務経験有り

授業計画		
実習・演習の進め方	個人課題を各自設定し計画を立て、デザイン～仕入れ～制作～指摘～再制作を繰り返す。	
回	項 目	授業内容
1	個人課題	個人課題の研究及び制作・計画 吉田・林
2	個人課題	個人課題の研究及び制作・市場での花材資材調達 吉田・林
3	個人課題	個人課題の研究及び制作・生花店などでの花材資材調達 吉田・林
4	個人課題	個人課題の研究及び制作・原価と売価の算出方法 吉田・林
5	個人課題	個人課題の研究及び制作 吉田・林・安保
6	個人課題	学内装飾の制作とメンテナンス 吉田・林
7	個人課題	大会やフラワーデザイナーの作品視察 吉田・林
8	個人課題	個人課題の研究及び制作・振り返りと見直し 吉田・林
9	個人課題	個人課題制作物のリメイク 吉田・林
10	指導力の会得	「花と緑の連携授業」「オープンキャンパス」などのアシスタント指導 吉田・林
11	個人課題	制作品のポートフォリオ化 吉田・林
12	個人課題	まとめ 吉田・林
13	発表練習	グループ及び個人課題の発表準備 吉田・林
14	発表	発表 吉田・林
15	個人課題	最終提出物のまとめ 吉田・林

注意事項	花材や資材購入は個人負担(実習経費)となります。予算計画を立てましょう。
学生へのメッセージ	他の人の作品からも学ぶことはたくさんあります。お互いの作品のデザインを相談したり、作品の感想などを聞いたりしましょう。

科 目					担当教員(○主担当)				
卒業研究・卒業制作Ⅱ(造園緑化コース)					○相田 明・新井 俊宏☆・渡邊 三好☆(非常勤講師)				
授業形態	演習	開講時期	2年後期	時間数	270	区分	必修	分野	共通
背景と目的	<p>本実習では、2年生前期までに学んだ知識と技術の集大成として、専攻生全員で学内敷地に造園空間を制作することを通して、造園の仕事の流れである構想、調査、測量、計画、設計、施工の一連の実践的な過程を経て、協同作業のすすめ方を体得し、協調性やチームワークを養うことを目的とする。</p> <p>また、報告書にとりまとめることにより、論理的な思考法や手際よく物事をまとめる能力の育成を図る。</p>								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・構想、調査、計画、設計、施工、管理の流れを理解する。</li> <li>・協同作業における全体の作業の進捗と自分の役割を把握し責任を持つことができる。</li> <li>・共同作業の重要性を理解する</li> </ul>								
授業外の学習	図面作成や資材準備。								
評価方法	出席率、取組姿勢、卒業研究論文、卒業研究発表								
教科書	—								
参考書	—								
関連する資格	—								

※☆のある教員は実務経験有り

授業計画		
実習・演習の進め方	<p>専攻生全員で学内敷地に造園空間を制作する。</p> <p>構想、調査、測量、計画、設計、施工等の一連の作業過程を報告書にとりまとめる。</p>	
回	項 目	授業内容
1	造園設計	全体計画の確定、詳細の検討、必要図面の作成 相田・新井
2	造園施工計画	施工計画書の作成、材料準備 相田・新井
3	造園施工①	測量、丁張設置 相田・新井・渡邊
4	造園施工②	移植・撤去工 相田・新井
5	造園施工③	造成工 相田・新井
6	造園施工④	園路工 相田・新井
7	造園施工⑤	広場工 相田・新井
8	造園施工⑥	修景・休養施設工 相田・新井
9	造園施工⑦	植栽工 相田・新井
10	造園施工⑧	仮設資材撤去・片付け、手直し、清掃、養生 相田・新井
11	まとめ①	報告書作成 相田・新井
12		
13		
14	まとめ②	発表準備 相田・新井
15	まとめ③	成果物の取りまとめ 相田・新井

注意事項	<p>実習時は作業着、グローブ、保護帽などを着用すること。</p> <p>天候などの理由により実習内容を変更する場合がある。</p> <p>体調管理を十分にすること。</p>
学生へのメッセージ	<p>2年間で学んだことの集大成として、コースの協同作業を通して各自が責任を持って積極的な取り組み姿勢で臨み、失敗を恐れず新たな課題に挑戦してください。</p>

科 目					担当教員(○主担当)				
SNS プロモーション					○井上 守☆				
授業形態	実習	開講時期	2年後期	時間数	30	区分	選択	分野	共通
背景と目的	インターネットやスマートホン等の普及により、誰もが SNS(ソーシャルネットワークサービス)により、情報を入力できる時代となってきている。SNS による商品 PR 戦略(プロモーション)は、今では企業の最も有効な手段のひとつとなっている。本講義では、YouTube による動画における情報発信を、動画の編集からアップロードまでの実践を通して、正しい SNS におけるプロモーションを学ぶ。								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・SNS プロモーションの現状を知る</li> <li>・SNS のリスクを知る</li> <li>・動画が編集できる</li> <li>・YouTube にプロモーション動画をアップロードできる。</li> </ul>								
授業外の学習	普段から、園芸関係の YouTube の動画をみて、興味のあるものに bookmark しておきましょう。								
評価方法	出席率、取組姿勢、意欲、制作物								
教科書	『YouTube 完全マニュアル』(秀和システム)								
参考書	-								
関連する資格	-								

※☆のある教員は実務経験有り

授業計画		
実習・演習の進め方	最後にそれぞれのプロモーション動画の発表会を行う。	
回	項 目	授業内容
1	SNS とは	SNS の仕組み 井上
2	SNS のリスク	SNS のリスクを過去の事例から学ぶ 井上
3	事例研究	企業における YouTube の活用例を研究 コンテンツと著作権 井上
4		
5	YouTube の開設	アカウントの取得、サムネイルの設定 タイトル、説明文、タグの設定 井上
6		
7	動画撮影の技術	撮影の基礎(撮影機材、撮影場所) 井上
8		
9	動画編集、制作	動画編集ソフトの使い方 (BGM、企業ロゴを入れる、字幕の挿入、映像効果等) 井上
10		
11		
12		
13	動画制作	アップロード、コメントの管理、メンテナンス 井上
14		
15	発表会	YouTube にアップロードした作品を鑑賞 井上

注意事項	-
学生へのメッセージ	年末から短期集中で実施します。この頃では多分就職も決まっていることでしょう。YouTube を正しく理解し、就職先でプロモーション動画が作れるようにします。

